

## 「高校再編計画」への 県内各地の反応をみる

県教育委員会は七月一日、少子化による生徒減のため今後十年間に、小規模の十高校の廃止、大幅な高校統廃合、職業科の六割の削減をすすめるとする「高校整備計画」を発表しました。計画そのものについては八木論文(13頁)と資料室(100～111頁)をご参照下さい。

これに対して多くの県民から批判の声があがりますが、特に小規模高校のある市町村では地域の高校を守る運動が盛り上がり、県及び県教委への要請・陳情、署名運動、町民集会などが広がっています。

八月末に当研究所も参加して「子どもと住民の立場から高校再編を考える会」が結成され、九月十一日に「高校統廃合を考えるシンポジウム」を開催しました。「考える会」は十月～十一月に「教育キャラバン」とりくみ、三七市町村、四六高校・分校を訪問し、懇談・要請を行いました。キャラバンはどこでも歓迎され、地域の高校の存続と発展を願う住民の思いや地域の実情を聞くことができました。また、地方議会に計画の再検討を求める意見書採択の請願書を提出し、すでに九月議会で三十自治体が採択しています。

本誌ではその様子をいくつか紹介することで、県民の立場に立って今後の高校のあり方を検討していきたいと考え特集を組みました。